

◆水明インターネット句会◆ 令和八年一月

(1)

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
掌の雪は流れて冬ぬくし 「雪国」の温もつてゐる炬燼かな	子ら去りてまた二人なる毎日かな 踏切の先ゆつたりと初明り	お出かけは孫のお下がりボアコート	除夜の鐘わたしが私許すとき	冬三日月嘘の芯まで見透かせり	惱みなどないふりをして初化粧	老人談笑人日のゴミ捨て場	年新た野猫とへぼ句と古き妻	そんなこと言ふた言はぬとおでん酒	惱みなどないふりをして初化粧	薦紅葉すつぱり小屋を包みけり	熊さんにハつあんになるおでん酒	粗挽きの豆の香りや冬日和	友達を恋人に変えし雪の華	冬薔薇一途というも侘しくて	福寿草コーヒー豆を挽く夫よ	煙立つアロマキャンドル除夜の鐘	鉄橋やSし迎えて冬の空		

◆水明インターネット句会◆ 令和八年一月

令和八年一月

大枯野井月の影彷彿と
ゆつたりとぬる湯につかる雪もよひ

湯上りの皺股を揉む雪模様

みどり児のふにやりと笑まふお元日

宍道湖に鉦簾うごめく冬夕焼

神奈川・三浦・足利・丹波・近江・

水立ヌハツジツ、黒カ

足裏でじやんげんしてゐ田向ぼこ

頭から食ふてみんさい柳葉魚だよ

友去りて表札変わり年新

よき香りパン焼きあがる春時雨

枯野道溶岩流の砂軽し

果ての無き毎道を歩む去年今年

補遺景猶子三一詩

安康や粗ニハニリハ茲未ニ

生き人と笑う初夢寝過ごせり

寒卵希望は毎朝やつて来る

冬籠スナック菓子と文庫本

(2)

◆水明インターネット句会◆ 令和八年一月																			
40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
冬籠スナック菓子と文庫本	寒卵希望は毎朝やつて来る	亡き人と笑う初夢寝過ごせり	鮫鱗や組にひとりは滋味な奴	円陣を組んで声汎ゆ舞台裏	初日影猫も三つ指つくごとし	果ての無き句道を歩む去年今年	枯野道溶岩流の砂軽し	よき香りパン焼きあがる春時雨	友去りて表札変わり年新	頭から食ふてみんさい柳葉魚だよ	足裏でじゃんけんしてる日向ぼこ	米粒ほどのジェット空ゆく初山河	初孫を影で見守る寒稽古	初春やサラブレッドの駆ける音	宍道湖に鋤簾うごめく冬夕焼	みどり児のふにやりと笑まふお元日	湯上りの皺股を揉む雪模様	ゆつたりとぬる湯につかる雪もよひ	大枯野井月の影彷彿と

◆水明インターネット句会◆ 令和八年一月

(3)

◆水明インターネット句会◆ 令和八年一月

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41
降る雪の傘に重たき別れかな 駆の母の手いまは柔らかし 門松の明るきことよ新所帶 聖なる夜街中拡がる鈴の音よ 火を灯す千の棚田や冬の暮	福引や目指して走る最後尾 妻として女としての初鏡 店頭に並ぶ古本冬日和 空風や改名しげき喫茶店 野の石に還りし仏冬すみれ 幼子が恐れる音で吹雪まく 夜はふけて一人仕舞い湯虎落笛 初鏡まばゆき光（かげ）に年を消す 息白む手習ひさらひ墨つづれ 両脇の子痺れる腕冬深し 朝日浴び紅鮮やかに実千両 女教師の手に闇魔帳初仕事 新年や路上に並ぶ県外車 いつ癒ゆる地球の疵や春まだき 枯木星また一つ増え夜深し																		

(4)

◆水明インターnett句会◆ 令和八年一月

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
松明けて神棚にあるプラレール	天上の幕末三舟星冴ゆる	鼻風邪に少し艶めく電話口	初詣 帰りに寄席へちよいと寄る	海光や緋寒桜のほころびぬ	山陰の積雪に笑む我ら子孫	初雪の畝間に残る大山家	きりたんぽ秋田美人の訛りかな	俊敏な女性總理や春近し	寒肥をひと粒づつね植木鉢	新春やシユトラウス聴き静まりぬ	自販機に御朱印ならぶ今朝の春	降る雪の傘に重たき別れかな	うつすらと枇杷の香放つ考古館	三姉妹笑い溢れて除夜は更く	トレモロに俳人嗤ふ寒鴉	北海道は四角のままに去年今年	この句座のこの顔ぶれや年新た	縁側に開く桃源日向ぼこ	蘆枯れて河口の波の荒れ始む

(5)

◆水明インターnett句会◆ 令和八年一月

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81
初鴉凍つる坂道初すべり	熱燗やいつもほつけの馴染客	珈琲と赤子の寝息冬茜	覗き見て瞳輝くお年玉	今生にひと花咲かせ霜柱	歳末や氏子総代札配る	アラームに幽体離脱寒の朝	親の鎧スーツに着替へ成人式	振出しに戻る試練や絵双六	厳冬の始発は湯気を吐きて来る	梅の枝のもつれし先の空は青	定まらぬ句の推敲や明易し	元日や人生ゲームの駒ぽつり	冬夕焼父母のおはする西の空	冬の霧山湖覆い霧の街	匠の目鷹の目の先有害鳥	卒寿にて喘ぐ石段初詣	冬の蝶すべてを知つて草に落つ	肉まんをはふはふ食ふや冬茜	なべ焼きや旦那が愚図で猫舌で

◆水明インターネット句会◆ 令和八年一月

令和八年一月

初句会あいさつ交わす華やぎて

こする手や猫耳揃ひ初詣

海に月漂ひてをり山眠る

雑炊を皆に取り分け宴おれる

壳落笛机を古めるスピリツ氏

卷之三

11 of 11

◆水明インター ネット句会◆ 令和八年一月